

星空が語るもの

FK704

星空は、私たちを魅了してやみません。日没から夜にかけて、ひときわ明るく輝く星々を見つけては、それが何の星なのかを言い当てたくはならないでしょうか？私は小さい頃から星に興味があり、自分が成長するにしたがって、星空を通じて見る宇宙の成り立ちについて知識が増えていきました。例えば、空に貼りついて見える一つ一つの星は、それぞれ地球からの距離が全く異なっていること、我々が星を見ているとき、それは何百年、何千年、何万年も前に発せられた光を見ているということ、宇宙全体が膨張し続けているということ…。これらの知識が増えるに伴って、私は星空を見る際に、ある種の感慨を覚えるようになりました。

時とともに宇宙が変化していても、それが星空の形状変化として現れるには極めて長い時間を要します。その時間と比べると、高々百年足らずの人間の一生の時間はもちろんのこと、国家の勃興から滅亡に至るまでの時間、更には古代から現代に至る文明の発達に要してきた時間などは微々たるものです。つまり、現代の私たちは、古代の人類が見た星空と同一の星空を見ているということができ、季節の移り変わりとともに巡り来る星空模様は、私たちの個人、組織、国家としての活動やその浮き沈みなどに関わらず、いつの時代も不変の姿を私たちに見せています。

私たちが星空を通じて宇宙に思いを馳せるとき、星空は、その不思議な魅力によって私たちの日常を忘れさせてくれます。その一方で、星空は、高度に文明化された現代を忙しく生きる私たちに対し、その不変の姿によって無言のうちに何かを語りかけているかのようにも感じられます。星空を前にして、私たちが抱いている願望、欲求、友情、快楽、あるいは悩み、葛藤、嫉妬、揉め事などに、一体どのような意味があるというのか、あたかも問い質されているかのような気持ちにさせられます。

星空には、私たちの心を洗う働きがあるのかもしれない。

“大空や…”

ぽんちゃん

山歩き里歩きを趣味として久しい。殆どが山里中心のハイキングであるが、時としては海岸や海辺の山も歩く。海を眺めながらのハイキングは、何時もとは違った雰囲気があり、特に天候の良い日の海原は格別の風景である。今春銚子屏風ヶ浦を訪ねた時、『小さな集落を抜けると前方に海が現れた。砂浜の先太平洋へ続く海原は広く、マリブルーそのもので、九十九里の海は穏やかである。晴天無風の中では、大海原も静かに上下しているに過ぎない。空も抜けたように広く開放感が一杯だ。』との記録を残している。山国育ちで、現在も海からは離れた地に住み、海を望むことは滅多にないからであろう。

海を本格的に眺めたのは小学6年の夏、臨海学校の時で、日本海の庄内浜に約1週間宿泊し、毎日海で泳いだり、砂浜で遊んだりした。帰校後、思い出に俳句を作ることになり、同級生達と遊び楽しかった夏の海を思い出して絞り出した句が、“大空の果てまで続く 水平線”というもので、西の空一杯に広がる大空と海とがながながと続き接する風景を詠んだものであった。これには後日談があり、4年後の高校1年の時、国語の時間にやはり俳句を提出することになり、苦肉の策に他の句に混じえて、小学6年作の“大空の・・・”句を潜り込ませたら、何と、この句のみが先生の目に留まり、“大空や・・・”と赤ペンで直してあった。

これに影響されたわけではないが、大空の下に果てしなく広がる海の風景は好きで、落ち着く。今風に言えば癒される眺めかもしれない。山歩きの間には、海辺を訪ねて歩くことにしている。そろそろその時期である。



【 空 】

空のある風景

高柳

皆さまは普段、休日などオフの日はどうお過ごしでしょうか。私は車に乗ってよくドライブへ出かけます。今回はいままで日本を車で旅をしてきた中で特に印象に残っている「空のある風景」をご紹介しますと思います。

1. ペシ岬からみた日の出（北海道 利尻島）



この写真は利尻島で1泊した翌日に宿で意気投合した旅行者と日の出前から待ち構えて撮ったものです。夏も終わった9月初旬のことでしたが、涼しい朝の空気の中、澄み渡った空がとても清々しい気持ちにさせてくれました。このとき宿泊した宿のスタッフの1人がちょっと面白くて、失恋を機に会社を辞めてアルバイトをしながら放浪の旅をしているという女性でした。前回は石垣島にいて今回は利尻島に来たといいますから、南の島から北の大地へ。なんかすごいですよね。この日の出のように良いスタートをされたらいいなと思ったのでした。

2. 猪苗代の湖面と空（福島県 猪苗代）



福島県の猪苗代湖には学生時代によく友人と湖水浴などを楽しみに行きました。そんな福島を初めて訪れた際、車窓から見た空の広さに感動した時のことは今でもよく覚えています。福島空はなんでもこんなに広く感じるのでしょうかね。ちなみに猪苗代湖から南西方面へいったところにある湯野上温泉という、湯船が川原にある無料の温泉は野趣にあふれていて、野湯好きにおすすめです。なんてことを書いていたら、空をぼーっと眺めつつ露天風呂でゆっくりしたくなってきました。

3. 阿蘇大観峰の雲海（熊本県 阿蘇）



最後にご紹介するのは、熊本県は阿蘇で見た雲海です。阿蘇山に行く前に立ち寄ったのですが、この日は、地元の人でもあまり見ることができないというぐらい厚い雲海に出会うことができました。まるで空の上に浮かぶ島に立っている心地でした。雲海が出る条件はいろいろあるみたいですが、阿蘇山へ観光の際はぜひチェックしてみてくださいはいかがでしょうか。

熱気球が舞う夜空

E.M

それぞれの土地には、それぞれの空の風景がある。今回は、私がタイで出会った空の風景をご紹介します。

タイにはロイカトーンと呼ばれる年に一回陰暦12月の満月の日を中心に開催されるお祭りがある。私はこの祭りの夜空の風景は人生で一度は見るべきものだと思う。

ロイカトーンは、水の女神コンカーに祈りをささげ、罪を謝罪し、自らを清める祭りで、タイ全土で行われるものだが、祝い方はその土地によって若干異なるようだ。基本的には、紙やバナナの葉で作った灯籠を川に流すが、私が滞在していたチェンライやチェンマイなどのタイ北部では、コムローイと呼ばれる熱気球を空に飛ばす。

紙でできた提灯のような熱気球は1メートルを超える大きなもので、灯りが灯され一斉に夜空に放たれるその風景は非現実的な美しさで、物語の中に迷い込んだようである。熱気球を放つ際に願いごとをし、無事天に舞うとその願いが叶うとその場にいたタイ人が教えてくれたが、灯りが灯された熱気球が徐々に空を昇り、天の川のように群衆とな



り月に向かって行くその様は、まさに願いが天に届くようである。

写真上：2011年チェンライのロイカトーン祭りの夜空。月に向かってコムローイが舞う。

写真下：コムローイを空に放とうとする人々の上空には無数のコムローイ。